

NPO法人ふるさと企画舎

世界遺産・熊野古道のある紀北地域で、地域資源を活かした参加体験プログラムの企画運営、環境保全活動、地域の魅力発信に取り組み「NPO法人ふるさと企画舎（北牟婁郡紀北町）」地域住民や来訪者がともにこの地域を大切な「ふるさと」と感じるまちづくりをすすめています。



代表 田上 至さん

お問い合わせ

「NPO法人ふるさと企画舎」
北牟婁郡紀北町船1548-1
TEL 0597-33-0077
(キャンプinn海山)

日本有数の清流として知られる銚子川。そのほとりに広がる「キャンプinn海山」の運営管理をするのが「NPO法人ふるさと企画舎」です。人・自然・歴史・文化などの地域資源を活かした「人づくり・まちづくり」の活動について、代表の田上至さんに伺いました。

活動のきっかけは。

田上：NPO法人を立ち上げたのは、海山町と紀伊長島町の合併を機に、町が管理していたキャンプ場の指定管理者を公募したことがきっかけです。「地域の大切な施設を、私たち地域住民の手で運営したい」と法人化して応募しました。

田上さんはそれ以前もさまざまな活動をされていたのですね。

田上：私は紀北町で生まれ育ち、高校卒業後は6年間で暮らしましたが、その後Uターンしました。帰郷したとき、子どもの頃によく遊んだ池が開発によってなくなっているのを見て、「この地域の魅力である自然を守りたい」と強く感じ、「自然を愛する海山メダカの会」を立ち上げて保全活動を始めました。また当時町が管理していた「キャンプinn海山」で自然体験のインストラクターとしても活動していました。長年ボランティアで取り組んできましたが、継続するには限界も感じていました。ちょうどその頃、キャンプ場の指定管理者を公募するタイミング

と重なったのです。——具体的にどんな活動をされているのですか。

田上：キャンプ場の運営管理を中心に、銚子川などこの地域ならではの自然や文化を体感できる体験プログラムを企画・実施しています。また元保育士のスタッフもいることから、子育て世代を応援する企画にも力を入れています。「親子ワークショップ」では、親が仕事をしている間に子どもを預かり、自然体験を提供しました。さらにアウトドア体験を通じて災害時にも役立つ「生きる力」を育む企画も実施しています。

銚子川とその周辺の自然環境を守るため、保全活動にも取り組んでいます。漁

協や利用者とともに清掃活動を定期的に行うほか、川沿いの看板や標識を磨き、訪れる人が気持ちよく利用できる環境づくりを進めています。

——他にはどのような活動をされていますか。

田上：活動を継続するには、自ら資金を生み出すことは重要です。そのために、まだまだ利益を生み出すことは難しいですが、地域の魅力や価値を高める取り組みとして、郷土食「くき漬け」の生産・加工にも力を入れています。

「くき漬け」とは？



子どもたちに体験を提供 ※



「くき漬け」づくりのようす ※



地元企業と一緒に取り組む ※

田上：サトイモの一種「ヤツガシラ」の茎を塩と赤シソで漬け込んだ郷土の漬物です。かつては家庭で作られていた「ふるさとの味」ですが、生産量が限られるため、地域内で消費されることがほとんどでした。

「くき漬け」の事業には、どのような方が関わっているのですか。

田上：地域の農家や企業と協働して生産・加工を行っています。農家が育てたヤツガシラの茎を当法人が漬け込み、商品化します。農家の皆さんにとっては収入につながる取り組みになればと思っています。地元企業の「海洋ゴム株式会社」

にも、CSR活動の一環として協力いただいています。銚子川の清掃活動を通じて交流が始まり、「外国人従業員に日本の文化を知ってもらいたい」という想いから、関わっていただくようになりました。紫蘇の若葉を摘むなど、人手が必要な作業では大きなささえとなっています。

——多様な関係者との関わりを大切にしながら、進められているのですね。

田上：紀北町の大切な施設を預かる立場として、地域のさまざまな人とのつながりを大切にしながら、地域の魅力発信と価値向上に取り組む続けたいと考えています。また、この地域の大きな魅力である世界遺産「熊野古道」を訪れる人たちにとって、「キャンプinn海山」が宿泊や交流の拠点となるような取り組みも進めていきたいですね。

——人づくり、まちづくりの拠点として、そしてこの地を訪れる人にとっても「ふるさと」と感じられる場所として、これからの活動にも期待しています。

インタビュー……中川 絵美子

※印の写真は取材先から提供していただきました